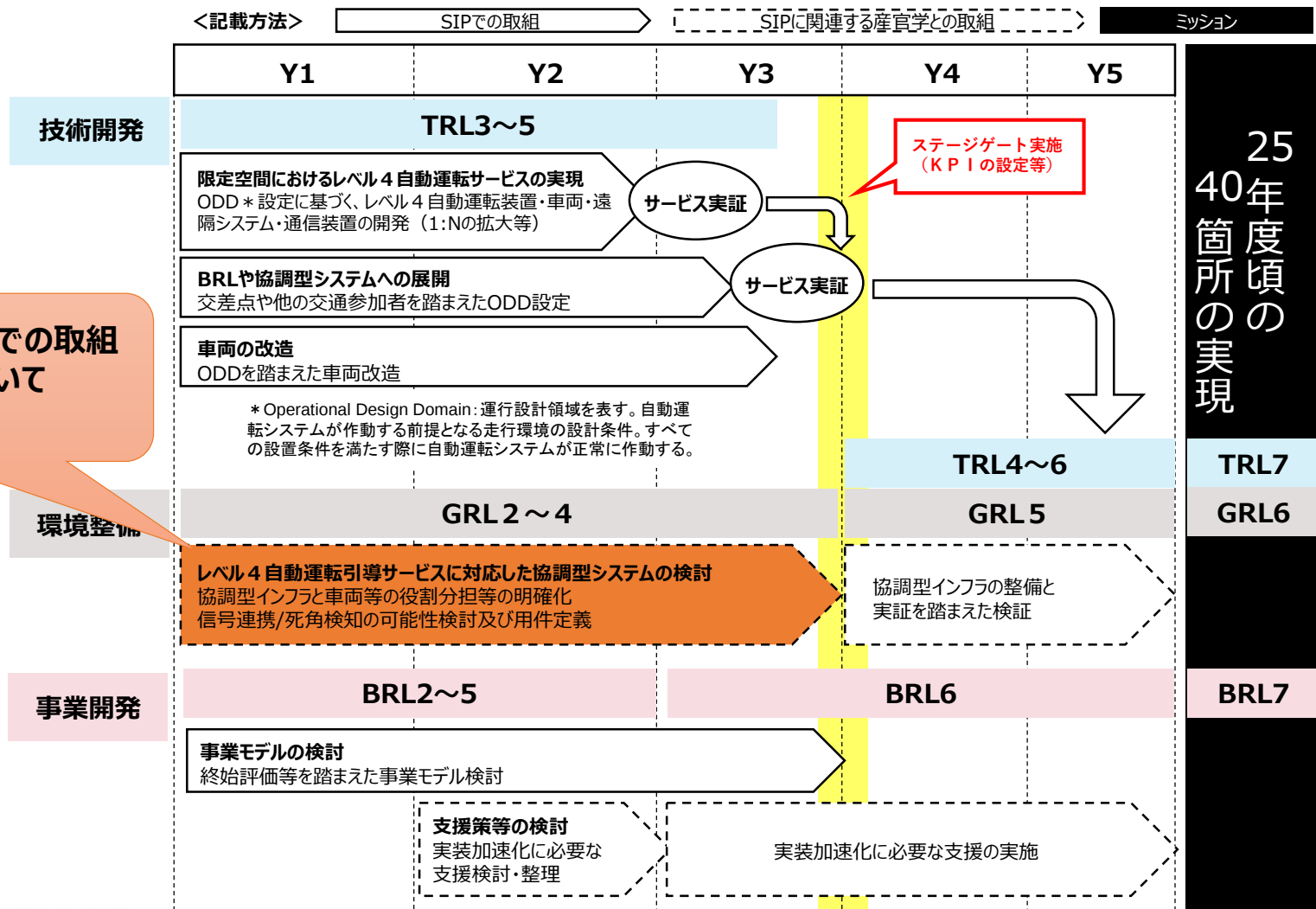


- 次期SIP/FSを通じて、社会実装に向けて、技術のみならず、事業、制度、社会的受容性、人材の観点から必要な取組として挙げられたもので、各省庁の関連する取組を加速・拡充すべきもの



社会実装に向けて各省庁での取組の加速が必要な案件についてPRISM等で支援

7. 個別重点課題の方針、要件、評価基準（案）

（3）SIP成果の社会実装

【方針】

- SIP課題に取り巻く経済・社会情勢の変化等を踏まえ、早期に社会実装を図るため、各省庁が主導して、社会実装に向けた取組を加速・強化すべきもの

【要件】

- SIPはSIP期間中に関係省庁や産業界と連携して社会実装に向けた体制を構築することが原則であるが、想定していなかった経済・社会情勢の変化等によって、早期に幅広く社会実装することが求められること。
- BRIDGE施策終了後、社会実装に向けた体制（採算性の確保、各省庁の支援制度への反映など）が構築されることが明確であること。

【評価基準】

- BRIDGE施策の実施によって、実施しなかった場合と比べて、SIP成果をどのくらい早期に、また、幅広く社会実装できるか（SIP成果を導入する時期の前倒しや対象者・地域の増加など）。

AIホスピタルを実装化するための医療AIプラットフォームの構築に必要な技術に関する研究開発

令和4年度補正予算額 7. 0億円

背景・目的

○医療機器等やIoT機器を活用し、患者情報の網羅的収集、ビッグデータ化に加え、AI技術を活用したAIホスピタルの開発・構築が進められている。AIホスピタルが実装化されると高度で先進的かつ最適化された医療サービスの提供体制が整備されるとともに医療従事者の負担軽減が期待される。

○コロナ禍により非接触型の診療・治療に対するニーズが以前よりも高まっていることや2024年度から医師の時間外労働の上限規制が適用されることなどから、AIホスピタルの実装化は喫緊の課題となっている。

○AIホスピタルの実装化のためには、医療AIの開発や医療機関への普及を促進するための医療機関とAI開発事業者（AIベンダー）をマッチングさせる場が必要であるが、現状ではそのような機能を有する場の整備は十分ではない。

事業概要

○AIホスピタルの実装化を進めるため、医療AIサービスの開発から製品化、サービス提供までを支援し、医療機関とAIベンダーのマッチングの場となる「医療AIプラットフォーム技術研究組合（医療AIプラットフォーム）」を構築・運営し、プラットフォーム事業の検証を行う。

- ①医療AIプラットフォームに医療AIサービスを搭載し、医療機関等の利用者に実際に利活用してもらうことで技術的な実証・検証を行い、社会実装に向けた課題を明確化する。
- ②社会実装に向けてニーズの調査等によりプラットフォームに搭載が期待される医療AIサービスの開発を進める。
- ③信頼できるAIサービスを医療機関等に提供できるようにするため医療AIプラットフォームのガバナンス機能を整備する。

資金の流れ



期待される効果

○優れた医療AIサービスが持続的に開発され、医療機関に提供することが可能となるプラットフォームが構築・運営される。

○これにより、AIホスピタルの実装が促進され、先進的かつ最適化された医療提供体制の整備が可能となる。